

第2回 強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会

構成員から質問に対する回答

質問 (井上構成員より)

「物理的な整備をもとにした地域移行について」

対象：公益財団法人知的障害者福祉協会、社会福祉法人福岡市社会福祉事業団、社会福祉法人はる

地域の受け入れ先をどう確保するかについて、既存の支援環境を持つ事業所への地域移行は、コンサルだけでは限界があるのでは、という意見もあったと思います。受け入れ先の物理的環境整備とコンサルつきでの施設支援が必要ということだと思いますが、受け入れ先の拡大のためには、具体的にどのような物理的な整備が必要と考えておられますか。例えば生活介護では個別スペースの確保など。入所、GHでは？

公益財団法人知的障害者福祉協会より回答

受け入れ側の建物構造としては、完全個室、遮音性の高い壁・床、生活単位の小規模化（大舎性の環境では支援は極めて困難）、職住分離（日中活動との分離）は最低限必要だと考えられます。

現行のグループホーム制度基準では、非常に難しい人を受け入れるグループホームを新たに作ることは現実的に厳しいです（建物・人員）、今グループホームが増えているのは民間の安価なグループホームです。当法人は上記の要件をふまえた強度行動障害のある方が暮らすグループホームを複数新設運営していますが、建設コストについては法人負担が格段と多く、拡充しない大きな要因となっています。

受け入れられない理由はいくらでも考えられますが、待った無しで求められている状況をふまえ、できることからやっていくという考えに立ち、短期入所の地域支援拠点の緊急時の受け入れ機能を強化してまず受け入れる先を確保することが重要だと考えます。

また、これに積極的に取り組むことは、今問われている現状の入所施設のあり方を大きく改善する方向に進める上でも重要だと考えます。日本知福協としてはより現実的な方策として、最重度者や強度行動障害のある方も暮らすことができる入所施設のサテライト化（地域の中での小規模化）を提案しています。

社会福祉法人福岡市社会福祉事業団より回答

- ①住環境全体の小ユニット化。か～むでは1ユニット2居室が2か所ある。
- ②天井は高めの設定。

- ③壁は石膏ボード以外のコンパネもしくは柔らかいクッション材。壁紙は破られる可能性大、巾木もスチール製のものが良い。
- ④床材も傷がつきにくい素材（傷がつくと床材をはがしてしまう）。
- ⑤出入口を複数確保する（利用者それぞれの動線確保）。
- ⑥建物内においても、利用者と職員の動線が確保されるような作りがよい。
- ⑦トイレはタンクレス、便器内に水がたまらないようなトイレ（新幹線にあるようなトイレのイメージ）
- ⑧エアコンは埋め込み式の方が破損に繋がりにくい。
- ⑨照明はリモコン式（据え付け式だとスイッチの破損に繋がる）。
- ⑩コンセントは据え置きではなく、必要な時に電源が取れるような工夫が必要。
- ⑪風呂場に余計なスイッチは配備しない（職員室等で管理する）。排水溝も円形でないもの（その穴に物を詰める）。
- ⑫火災報知機はランプ部分をフラットなものにする。

その他、防音対策やガラスの選定など考慮する必要があると思います。
上記内容を後付けすると消防法との兼ね合いが出てきますので、環境を整えにくいことがあります。

私の最後のスライドにも記しましたが、既存の GH への移行は適応のよい利用者でなければ難しかったです。上記のような整備もハードルが高いと思われます（そうまでして受け入れるかという受け入れ先事業所の考え方にも影響されるので）。
仮に適応が良くても、すでに入居している利用者の方々から拒否があり移行を断念したケースもありました。

ですので、新規で立ち上げた GH に最初の利用者として受け入れていただく方が、移行できる可能性が高かったです。

社会福祉法人はるより回答

GH の例では4つ考えられます。

1、個室

スライドにも記載した、専用の玄関とトイレを備えた個室化が重要だと考えています。
共有スペースを介して同ユニットの方の影響を感じられてしまう方に対して、追加の工事で個室を整備しています。

また、入居時の見立てでは一番困難さのある方が、個室での生活で崩れずに5年生活できているのは個室の効果と実感しています。

2、施錠エリアの整備

虐待にあたらないように入念に消防や行政と協議をした上で、保護者や本人に同意を得

ながらの施錠管理が必要と考えます。

利用者様への刺激を減らすために利用できるエリアを区切ること、玄関から外に飛び出る方に対しては、災害時に解錠される電機錠やカバーを破壊したら外に出られる鍵なども必要と考えます。

3、頑丈な建具

破壊行為が起こった際、壁や天井、便器や窓、ドアを度々破壊されました。生活に欠かせないものが一時的に使用不可になった際のその環境での支援組み立てや、頑丈な壁への修繕と段取りに大変苦労しました。高価でしょうが、可能なら、壊れない前提の建具や備品を揃えられると結果的に労力（疲弊して退職した職員も含む）や修繕に費やした金額よりも安く済むと考えます。

4、導線

複数ルートが確保できること。様子を確認したい利用者様 A がいらっしゃるときに、別の利用者様 B のエリアを通過の確認する場合。

B さんパニックの時に、A さんのエリアになかなか行けないことがあります。適切なタイミングでの介入がないことで、A さんも連鎖的に不穏になることがあります。また、スタッフが他害を受けて、追いかけられた場合も逃げ道が複数ある方が安心です。

可能であれば、入口を複数確保するなどの動線があればよいと考えます。

これらを整備してはじめて、落ち着いた環境で、安心して支援できる一歩目が踏み出せると感じます。

その上で、はるは殺風景な居室にはせず、できるだけ温かみのある寝具や家具等を導入して（スタッフが寝泊まりしてもいいと思うような）空間を心がけています。

以上